

社会イノベーション

日立の社会イノベーション

日立グループにおける世界最大規模のイベント「Hitachi Social Innovation Forum 2018 TOKYO」が、2018年10月18日(木)、19日(金)に東京国際フォーラムで開催されました。本年度は、講演、対談、ビジネスセッション、セミナー、展示などの多彩なプログラムを通じて、日立ならではの強みであるIT×OT^{※1}×プロダクトを組み合わせた社会イノベーション事業の成果、今後の展望などを幅広く紹介。来場者の皆さまに「豊かな社会」の実現に向けた日立の取り組みをアピールしました。今回は、その講演と展示内容の一部をご紹介します。

※1 Operational Technology

社会イノベーションで、ともに豊かな社会を

Hitachi Social Innovation Forum 2018

TOKYO



東原 敏昭

(株)日立製作所 執行役社長 兼 CEO

基調講演

ともにつくる豊かな社会 ～日立の社会イノベーション～

「Hitachi Social Innovation Forum 2018 TOKYO」の幕開けとなる基調講演には、日立の執行役社長 兼 CEO 東原 敏昭が登場。冒頭では、デジタル化の進展で生産性や利便性の向上など「光」である新たな価値が生まれる一方、セキュリティリスク、個人情報問題など「影」となる懸念も顕在化していると指摘。ただしそこで「影」にお
ちゆうちよ
びえ「光」を生み出すことに躊躇(ちゆうちよ)してしまう

のではなく、「人の想像力、アイデアを持ち寄った協創によって、デジタルの光の価値を最大限引き出すことが重要」と語りました。

これから日立がめざすのは「社会課題の解決」と「人々のQuality of Lifeの向上」が両立する社会です。そしてそのための鍵となるのが「デジタル技術」と「協創」です。

「1910年、日立は鉱山で使用する工作機械の修理工場で、ベンチャーとして創業しました。以降100年以上にわたり、プロダクトやインフラシステムなどのモノづくりとあわせて、機器や設備を安全に動かし、状況に応じて運用する“OT”を培ってきました。そして1960年以降に展開してきた“IT”では、ビジネスを効率化し、快適なサービスを支えてきました。だからこそリアルとサイバー、そしてヒトとモノがつながるIoT時代において、皆さんと一緒に価値を生み出すことができます」と東原は語りました。

創業以来培ってきたモノづくりや、強みであるIT、OT、プロダクトの「現場の知」

を結集した価値創出のための基盤が「Lumada」です。Lumadaを活用し、お客さまさまざまな専門性を持つ人たちが力を合わせ、アイデアを結集し、課題を解決していく——この「協創」のアプローチこそが、未来の豊かな社会の実現には欠かせない要素となります。

講演では、Lumadaとデジタル技術の活用により、業務効率の向上や人手不足の解消にとどまらず、人々の暮らしを支え、Quality of Life向上にも貢献する、日立と国内外のお客さまの協創事例が数多く紹介されました。その成果は再びLumadaに取り込まれ、同様の課題を持つ、さまざまな国や地域へと展開され、イノベーションの連鎖を生み出していきます。

終盤で東原は、より長期的な未来の社会を見据えた産学連携や人財育成の取り組みを説明した後、「私たちは豊かな社会の実現のため、皆さまと新たな協創の芽を数多く生み出していきたいと考えています。今後とも、日立にぜひご期待ください」と力強く語り、大きな拍手を浴び、講演を終えました。

講演

グローバルに拡大する
社会イノベーション

「グローバルに拡大する社会イノベーション」と題した講演では、日立の社会イノベーション事業全体を統括する執行役員社長の塩塚 啓一と、Lumadaを核としたデジタルソリューションのグローバル展開をけん引する日立グローバルデジタルホールディングス社 CEOのヒッシヤム・アブデサマドが、より幅広い分野のお客さまとの協創で豊かな社会を実現するビジョンと先進的な取り組みを紹介しました。

冒頭の、デジタル技術が人々の暮らしに浸透した未来の生活イメージ映像の

後、塩塚は「あらゆるものがネットでつながり、さまざまなデータがシームレスにやりとりできる世界では、自動運転の車が危険を予測したり、少し体調が悪いときには、自宅にいながらすぐに検診を受けられたりするようになるでしょう。デジタル技術が人々の暮らしや企業活動のあり方を変え、社会生活を劇的に変化させる時代がやってきます」と説明。

その一方で「足元では高齢化・都市化にともなう人手不足や社会インフラの老朽化、水不足など、数多くの社会課題が発生し、拡大を続けています。そこでわれわれの持つ『デジタル技術』と、お客さまとの『協創』で新しい価値を生み出し、世界中の国や地域の人々に寄り添うサービスをお届けします。そして『社会課題の解決』と『Quality of Lifeの向上』を両立させ、より豊かな社会の実現をめざしていきます」と強調しました。

続いて登壇したヒッシヤムは、ここ数年で劇的な変貌を遂げた世界経済やビジネスモデルを「Destruction（破壊）」という言葉を使いながら解説。その背景には、実用レベルに達したAI^{**2}やIoT^{**3}、5Gネットワークに代表されるデジ

タル技術により、多様なデータや機械がつながる“接続性”がグローバルに拡大していること、デジタル化に慣れ親しんだ価値観やライフスタイルを持つ新しい世代への交代が進み、ビジネスモデルが従来の「消費」主体から、「経験」や「シェアリング」を重視したものへの転換を余儀なくされていることを挙げました。

そこで生まれた新たな経験を提供するビジネスモデルの例として、シェアリングエコノミーやオンデマンド エコノミーなどを紹介しました。

「デジタル変革の中で最も注目すべきなのはエコシステムの進展です。企業、お客さま、パートナー、取引先、技術——すべてが一体となって新しい経済をつくり始めています。エコシステムが大きければ大きいほど、新たな価値を生み出します。そして日立は今、エコシステムにフォーカスした取り組みを進めています」とヒッシヤムは語りました。

日立のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みも紹介されました。2016年に日立はIoTプラットフォームLumadaの提供を開始。2017年にはLumada上でお客さまの課題を解決するためのソリューションを構築。2018年からはソ



塩塚 啓一
(株)日立製作所
代表執行役 執行役員副社長
兼 社会イノベーション事業 統括責任者



リューションに加え、お客さまにとっての新たな価値として「利益を上げる」「競争力を高める」「ビジネスモデルを創造する」といったバリューを生み出す段階へ進化させたと説明しました。

「その次の段階は、統合型のデジタルエコシステムだと考えています。例えば、日立が持つ製造業としての多岐にわたる実績やIT/OTのノウハウに、お客さま、パートナー、取引先が持つ技術やアイデアを取り入れ、新たな価値を創造する産業界のエコシステムをつくっていく。あるいは国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、水や公衆衛生、ヘルスケアなどの問題を解決するエコシステムをつくっていく。これがわれわれのビジョンであり、社会イノベーションの問題を解決する道なのです」とヒッシヤムは続けます。

加えて、日立が開発した顧客協創方法論「NEXPERIENCE」、協創を加速する場となる「Lumadaコンピテンシーセンター」のグローバルな広がりなど、デジタルトランスフォーメーションやエコシステ

ムの構築に欠かせないアプローチとなる「協創」でお客さまと共に創ることが重要であると説明し、インドやオーストラリアなどで展開されているグローバルな協創事例が紹介されました。

※2 Artificial Intelligence

※3 Internet of Things

ここで再び登壇した塩塚がヒッシヤムに「先進的な協創とは何か」と質問。

これに対してヒッシヤムは「3つの原則があると考えています。1つはお客さまやビジネスの課題を中心に捉えること。2つ目は日立とお客さま、パートナーがオープンな環境で一緒に考えアイデアを出し合うこと。そしていちばん重要な3つ目が信頼です。デジタルトランスフォーメーションの実現には複数年かかります。その長い旅路(Journey)を共に信頼し合い、歩むことで、新しい景色(課題解決や価値創造)を見ることができるのです」と話しました。

これを受けた塩塚は、「ヒッシヤムも言っていたように、やはり協創には最先端クラスのテクノロジーの前に、人と人、



ヒッシヤム・アブデサマド

日立グローバルデジタルホールディングス社 CEO
兼 日立コンサルティング社 CEO

いわゆるFace to Faceの信頼関係が大切なのですね。私たち日立はこれからも、『デジタル技術』と、お客さまやパートナーの皆さまとの『協創』を通して、『人』を中心に据えたヒューマンセントリックなデジタルソリューションを提供し、世界中の誰もが安全・安心で生き生きと暮らせる社会の実現をめざしてまいります」と語り、講演を締めくくりました。

その他の講演

「Hitachi Social Innovation Forum 2018 TOKYO」では、今回紹介した基調講演と講演のほかに、2017年ノーベル経済学賞受賞者のリチャード・セイラー氏による特別講演や各界の有識者による2件の特別対談、そして異業種とのパートナーシップを形成し、従来とは異なるデータやアイデアを掛け合わせることで生まれたさまざまなイノベーションを語る「AIとビッグデータで拓く金融デジタルイノベーション」、製品やサービスの利用者である生活者視点からのイノベーションや新たなビジネスモデルの創出によって、経済と社会の発展にいかんにか貢献していくかを語る『「つながり」が生み出す産業イノベーション ～新たな日本クオリティとサービス化。そしてその先の価値へ～』、官民の枠を越えて課題解決に取り組む協創と新たな社会・公共サービスの先進事例を通して、世界に先がけてSociety 5.0がめざす人間中心の未来社会の姿を展望する「Society 5.0がめざす人間中心の社会と暮らし ～デジタル変革と協創がリードする社会・公共サービス～」など7件のビジネスセッションが行われました。